



## 家族との会話を楽しんでます

桜町 栗原美由紀さん 30歳

平成13年のクリスマスに生まれた娘も、お友達と一緒に公園ですべり台をして遊ぶのが大好きな2歳になりました。

最近はいろいろな言葉を覚えたので、家族との会話や歌を歌うことがとても楽しいようです。靴を履くことや着替えを失敗しながらも一生懸命やってみたり、家事などを手伝ってくれる姿を見て、少しずつの成長を実感しとてもうれしく思います。ですが環境の変化にはまだまだ弱く、私の実家に泊まったり旅行に行ったりすると必ず熱を出して帰ってくる始末です。

これからも元気で人の気持ちのわかる優しい子に育ってくれたらと思っています。

## マイカー・デモシク

# 2つのサイクルで花づくり



1年を2つのサイクルに分けて、花づくりを楽しんでいます。前半は、5月の連休中にペゴニアを植えます。ペゴニアは、あまり水を必要としないので比較的管理は楽です。この時期には、庭はペゴニアでいっぱいになります。後半は、10月下旬に庭の花をパンジーとピオラに植え替えます。これらの花は、冬を越して5月上旬まで楽しめます。

冬の時期は、大半の花は室内に入れます。

庭のあちこちには、宿根草を植えています。生垣はドウダンツツジとキンキヤラです。キンキヤラは黄色に色づき、庭全体が明るくなります。

花づくり以外にはテレビで放送される季節の花だよりが大好きです。放送があると、じっとしてられず近所の友だちを誘ってその場所に花見に出かけることが多々あります。

静町 木村ヨシ子さん



公園で遊ぶのが大好きな空ちゃん(2歳)

## KOGA 万華鏡

## 古河公方重臣 野田氏の動向

先年寄託された野田家文書の紹介展示を現在行なっています。

野田氏は現在の栃木県足利市・佐野市域などを本領とする領主と言われ、その後十四世紀末には鎌倉府の奉公衆として築田氏等と鎌倉の御料所となった下河辺荘を支配するため荘内に移ったと見られます。

特に野田氏は古河住人と呼ばれ古河を拠点に周辺へ進出し始めます。

ところが永享12(1440)結城氏朝等が鎌倉公方足利持氏の遺児、安王丸・春王丸を擁立し拳兵した、いわゆる結城合戦の折には、野田氏もこれに呼応し古河城に立て籠もります。しかし室町幕府軍の総攻撃に遭い結城城に続いて古河城も落ち、多くの家臣が討ち死にしています。

城主野田持忠はいったん落ち延びその後古河城を回復、さらに足利持氏の子成氏が鎌倉公方に復帰し、鎌



足利義氏制札

倉から古河へ座を移す(古河公方)と野田氏は成氏を古河城に迎え入れ自らは栗橋城(茨城県五霞町)に移りました。これにより関宿城の築田氏と栗橋城の野田氏は古河城の両翼として古河公方を支えました。しかし小田原北条氏の北関東進出に伴ない栗橋城を北条氏照に明け渡し、古河公方の宿老として北条氏の指揮下に入りしました。

北条氏滅亡後は徳川家康の家臣に召抱えられ明治に至っていいますが、今に伝わる約30点の文書から野田氏・古河公方、それらを取り巻く当時の社会状況が伺えます。

写真の文書は天正2年(1574)古河公方足利義氏が野田氏の所領である関戸・大野(総和町)の領民の処遇について命じたもので、義氏の印が二重に押印されています。展示は3月7日までです。

古河歴史博物館学芸員 鷲尾政市